

二六又の遅れお詫びします

香雪の古見輝彦氏の『本を道に...』
『梅園学舎』の発行の遅れを二理解お詫びします

やはり梅園は学と修を重視

東京御会では養生訓の会談を...
『梅園』の人間規定「人道を以て人」と

人道の条理的な意味

梅園の人道も、人の道、人の歩むべき道、人が人であるための実行法(人道)

付ておりました。次の件(う)を見てください。
物、内に有る者有れば則ち必ず外

命する者なり。修は荒の偶なり。人の道なり。何を以て之を人の道と謂ふ。

修荒は人に在りて而して天に在るなり

天の道德(自然の道德)と人の道德の対比
天地に存在するあらゆる物は、内に何が

と名づけたもので、どこまでも修しを人の道(道徳)と云ふのである。梅園の指

人間は井戸を作るがごとく底をさす
わが心(心)汚れせしむ(汚れ)

この。それだけの手ぎても怠り自然
は荒れ、汚れる。環境破壊、公害は

梅園はとてり聡明な方でした。
人の道の天の道とはちがうフラスマ

人間が美しいと思うものは何か、醜い
と思うものは何か。その美しいと思

善を修めてきたものが「仁」、是(た)
し)を修めてきたものが「義」。仁義

改めて礼(礼儀)とは何か
梅園には仁義礼と云う理論があり

仁義は善と是を洗練させた概念を
梅園は何を善とし、何を是(正)としたのか

二れは人情に根ざしたものであろう
天(自然)と人とを区別し、茶室の中

